

中古自動車部品の需要者・供給者の情報共有で取引方法を変革した企業

石川県金沢市の会宝産業株式会社(従業員78名、資本金5,700万円)は、使用済自動車の解体等の自動車リサイクル事業や、中古自動車部品の販売事業を手掛ける企業である。

同社では、輸出が売上の約7割を占めており、その取引先は、71の国・地域に及ぶ。同社の国内外との幅広い取引を支えているのが、「KRA(Kaiho Recycler's Alliance)システム」と呼ばれる中古自動車部品情報管理システムである。

このシステムでは、使用済自動車の査定から、仕入、生産、販売までの過程や、在庫、品質、原価といった部品の情報を一元的に把握し、管理することができる。情報管理を進めることで、需要側と供給側の交渉で、部品一山の価格を決めていた従来の取引方法を変え、適切な仕入価格・販売価格の設定が可能となった。その結果、部品の購入事業者だけではなく、供給事業者からも信頼が得られている。

国内外の取引先もこのシステムを導入することで、同様の管理を行うことができる。システムを導入した取引先とは、部品在庫の共有や、統一された品質基準の利用をすることができ、関係を強めている。また、人気の高い部品は需要が多く、調達力を高めることが重要となるが、同社では国内の自動車リサイクル業者と連携し、対応している。

同社が、輸出手続や代金回収を担い、提携先は、部品の調達、品質確保に注力することで、連携の効果を上げている。現在は、社内サーバ内の管理システムに、システム参加者が、インターネット経由でアクセスしているが、今後はクラウド化して、運営コストを下げることが検討されている。

中古品の倉庫

